

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	わせだだいがくこうとうがくいん				②所在都道府県	東京都
26～30	① 学校名	早稲田大学高等学院					
③対象 学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	全日制普通科のみ 在籍者総数 1488名 各学年 12 クラス編成 卒業生全員が早稲田大学に進学することが可能	
普通科 (全日制)	493名	510名	485名		1488名		
⑥研究開発 構想名	多文化共生社会を創造するグローバルリーダー育成プログラム						
⑦研究開発 の概要	本校が開発する SGH プログラムは、全生徒推進型のものである。入学した生徒全員が、教科・日常的な学習環境・課外プロジェクト活動を通じて、「外国人、企業・NGO 等、大学、教養（古典）、地域社会」という「五賢人」の多様な知と出会うことで、もって多文化共生社会を創造するグローバルリーダーの育成を目指す。						
⑧ 研究開発 の内容等	⑧ -1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>「多文化社会のなかで、自己の主張をしながら集団的意思決定に積極的に関与しつつも、その結果に関わらずその集団に継続的に関与し続ける態度」を持つ人物をグローバルリーダーと位置づけ、その育成を目的とする。それは今日のグローバル社会において、責任ある地球市民の態度である。この目的は「恒常的に多文化な空間で、集団的な意思決定に関与できる環境」でなければ達成できない。そのため、目標として「恒常的に多文化」な学校となること、さらに「集団的な意思決定に繰り返し関わる」状況を創設することを設定した。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は、これまでも数多くの国際的取組を行ってきた。しかしいずれも課外活動として行われる範囲にあり、参加できる生徒は多くない。そのため、全員が参加できるように工夫した全生徒推進型の教育プログラムの開発を目指し、より望ましい教育課程の開発と普及を視野に入れつつ、入学した生徒全員が多様な知に出会える環境において積極的に活動することで、上に示したグローバルリーダーが育成されるという仮説を立てた。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>多くの高校生は、外国語が必要とされない生活世界と外国語が絶対不可欠の社会システムの狭間に立ち、その不安を共有している。本校の取り組みは、その狭間をつなぐ環境に、学校自体がなろうとするものである。それは公立私立を問わず将来の学校の共通の役割になると考えられるため、成果は他校生徒や学校関係者、学会や研究会など学術会議、ネットワークメディアで配信するとともに、4年目に「学院グローバルフェスティバル」を開催して、実際に多文化共生の空間を創出して社会に成果を発信する。</p>					
		⑧ -2 課題研究	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>多文化の共生に向けた課題発見と政策提言を目指す「多文化共生空間の創造・維持・発展」の研究に取り組む。その研究の成果発表の場として、本校生徒が主体となって校内に創造する「学院グローバルフェスティバル」の開催に向け3つの分野で研究を進めていく。具体的な学習テーマ例は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「多文化共生のまちづくり」A① ・「異文化との共生を目指して」A② ・「多文化が共生しうる空間創り」B① ・「各界が望むグローバルリーダーの資質」B② ・「諸外国の移民や国内の外国人問題」B③ ・「移民との共生」C <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>A. 「教科内取組」</p> <p>①「総合的な学習の時間」（高2・週1）において、「多文化共生のまちづくりに関する調査探究型授業」を行う。小グループで地域における多文化共生に関する課題を調査し、大学教授や専門家の助言を得て政策提案を作成する。平成26年度は、上石神井地域に関する生徒の意識調査を行い、グループごとの討論を経てまちづくり構想の作成を行う。</p> <p>②「第二外国語（4言語・独仏露中）の授業（高3・週2）」においてプロジェクト学習</p>				

	<p>を行う。日本在住の4言語母語話者にインタビューをし、日本社会における外国人との共生について実態調査を行い、問題解決方法を模索する。平成28年度より高3での必修化を目指し、平成26年度から教材開発等準備を行う。</p> <p>(検証評価方法) 生徒によるアンケート実施、学内外での提案の発表、学内による発表、学会、研究会等を通じた検証評価</p> <p>B. 「環境作りと機会設定」</p> <p>①「グローバルセンター」としての高等学院を目指し、早稲田大学の留学生を対象に、学校内において日本語学習機会及び文化・知的交流の場を提供する。おもに放課後に実施する。早稲田大学国際交流センターと連携し、恒常的に多文化の環境を生み出せるよう、学習・交流の場の充実を図る。平成26年度から実施する。</p> <p>②「企業・NGO等との協働」として、国内外で活躍するプロフェッショナルによる講演会等の企画を実施する。異文化・多国籍の人々と事業を展開している現場のプロから直接話を聞く機会を設け、リーダーとして必要な能力やスキルを学び、生徒が将来を見据えてSGHの活動に参加することを目的とする。平成26年度は講演会等を実施するとともに、生徒と企業の協働プロジェクト学習を行う。</p> <p>③「高等学院版SGH オンデマンドコース」を開設する。生徒が入学前から高い目標を持ってSGH活動に継続的に参加できるような内容、および多文化共生をテーマに学習できる教材等をウェブ上で配信する。平成26年度は平成27年度の開設に向け、早稲田大学グローバルエデュケーションセンター等の協力を得て、本校独自のコース内容を検討し準備を進める。他校も使用できる汎用性の高いものを追求していく。このコースは、平成27年度の入学予定者を対象に実施する。</p> <p>(検証評価方法) 留学生及び参加者生徒によるアンケートを利用しての企画の改善、活動報告会、オンデマンドコンテンツを利用してのウェブ上での評価</p> <p>C. 「課外プロジェクト学習の充実・発展」</p> <p>多文化交流の充実や生徒の主体的学習の充実に直結する新たなコンテンツベースの課外プロジェクト活動を設定する。</p> <p>①オーストラリア、ヨーロッパ、北米の三地域でフィールドワーク活動を行う。準備段階から各国教育機関や大学教員から協力を得る。平成26年度はオーストラリア研修の下見、募集、事前学習を実施する。</p> <p>②早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)が主催する国際交流プログラムに参加する。本課題研究に沿ったプログラムを選定し、大学生と共に活動できる内容を検討する。平成27年度の実施に向け、平成26年度は準備期間とする。</p> <p>(検証評価方法) 外部の「国際交流プログラム」や研究会、学会等での発表、評価</p>
⑧ -3 上 記 以 外	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 平成26年度は、次年度実施に向けて、早稲田大学の協力のもと希望者対象のTutorial Englishの環境整備を行う。また、TOEFL ITP・TOEIC IPの年一回受験義務化準備、英語論文プレゼンテーション指導の体制を整備する。英語力一般の向上や学部・学科進学状況等をもとに検証評価できるよう方法を定める。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 該当なし</p> <p>(3) グローバルリーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法 本校は既に帰国生枠を設け、積極的に入学を受け入れている。海外留学、海外研修に関しては、本校生徒の送り出しが150名、留学を含む帰国・外国人生徒の受け入れが80名となるよう取り組んでいく。また、海外提携校・提携組織を拡大していくと同時に、国際教育ネットワーク団体の各種プログラムや国際コンテストへの参加も増やしていく。</p> <p>(4) 幹事校としての取組(該当する場合のみ記入)</p>
⑨その他 特記事項	なし

ふりがな	がっこうほうじんわせだいがく	わせだいがくこうとうがくいん	指定期間	26～30
学校名	学校法人 早稲田大学 早稲田大学高等学院			

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）									
		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	1440人
	SGH対象生徒以外:	人	546人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: さまざまな課題研究を通じて、生徒全員が社会貢献や自己研鑽活動の意義を見出すようにしていく。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	150人
	SGH対象生徒以外:	67人	55人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: これまでの取り組みに加えて、SGH課題研究等の活動での増加を見込む。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	%	62%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 高大7年で100%の留学を実現するために、仕事で国際的に活躍を望む生徒の割合を100%にしていく。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	25人
	SGH対象生徒以外:	人	5人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 課題研究を通して、グローバルな社会・ビジネス課題関連の大会での入賞者数を毎年数名ずつ増やす。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	60%	60%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 生徒全員が、英語でのプレゼンテーションを含む高い運用能力を身につけることをめざす。									
(その他本構想における取組の達成目標) 外国人年間来校者数									
f	SGH対象生徒:								500人
	SGH対象生徒以外:		80人						
目標設定の考え方: 本校を「グローバルセンター」化するなど、留学生等の来校者数を飛躍的に増加させる。									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	99%
	SGH対象生徒以外:	100%	100%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: ほぼ全卒業生が、文部科学省が支援する国際化に重点を置く大学早稲田大学へ進学するため。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	5人
	SGH対象生徒以外:	0人	1人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 大学進学後に全員の生徒が留学を目指すよう、高校で指導する。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 大小、直接間接的な影響を生徒に与えることを想定して100%とした。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	480人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 高大7年で、100%の実現を目指す。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	人	23人	人	人	人	人	人	100人
目標設定の考え方:これまでの取り組みに加えて、SGH課題研究等での研修が見込まれる。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	人	5人	人	人	人	人	人	1440人
目標設定の考え方:全員が何らかの形で参加できる研修が行われるため。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	校	5校	校	校	校	校	校	10校
目標設定の考え方:連携する高校・機関の数を毎年少なくとも1校加えていく。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	人	5人	人	人	人	人	人	100人
課題研究を推進するために、積極的に大学教員及び学生等の外部人材に協力をあおぐ。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	人	5人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方:課題研究を推進するために、積極的に企業又は国際機関等の外部人材に協力をあおぐ。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	人	29人	人	人	人	人	人	70人
目標設定の考え方:課題研究を通して、グローバルな社会又はビジネス課題に関する大会での参加者数を毎年増やしていく。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	53人	52人	人	人	人	人	人	80人
目標設定の考え方:すでに年間30人程度の帰国生を受け入れている。留学生受け入れ数の増加に努力する。								
先進校としての研究発表回数								
h	0回	0回	回	回	回	回	回	10回
目標設定の考え方:課題研究を踏まえての本校での研究発表および、他校・学会等における研究発表を想定している。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						○
目標設定の考え方:学校HPは英語版を26年度中に整備し、SGHのHPは5言語で速やかに準備する。								
(その他本構想における取組の具体的指標)外国語でプレゼンテーションをする生徒数								
j		30人						480人
目標設定の考え方:生徒全員に外国語でプレゼンテーションをする体験をさせる。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	1,503	1,488	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							